

式辞

本日ここに、保護者、ご来賓の方々をはじめ皆様のご臨席のもと、令和5年度、国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校情報機械システム工学科卒業証書授与式並びに第18回専攻科（生産システム工学専攻）修了証書授与式を迎えることとなりこの上ない喜びです。

昨年の3月には、電子機械工学科34回生及び制御情報工学科31回生を送り出した本校は、2学科を改組して創設した工学系の新しい学科、情報機械システム工学科の卒業生80名をこのたび世に送り出すこととなります。情報機械システム工学科のみなさんは、5年間の高等教育の課程を修了し、準学士（工学）の称号を授与されました。情報工学、電気電子工学、機械工学を基盤とし、学生自身の個性に応じたカリキュラムを選択することで、地域に貢献し日本の産業を支える実践的技術者としての専門知識・技術を身に付けられました。

専攻科生産システム学専攻を修了された9名におかれては、大学改革支援・学位授与機構の定めた条件を満たし学士（工学）の学位を授与されました。高度の学術と広い領域の専門的学術を修められ、国際的感覚と広い視野を持つ、研究・技術開発と創造能力を発揮できる技術者として成長されました。

皆さんの今日に至るまでの不断の研鑽を称えますとともに、皆さんを物心両面から支えて来られた保護者の皆様に、心からお祝いを申し上げ、今後のご活躍を祈念申し上げます。

1月には能登半島地震を経験しました。被災された方々には重ねて哀悼の意を表したいと思います。3月11日は、東日本大震災から13年目となりました。能登半島地震のみならず、我が国をとりまく自然災害のリスクは見過ごすことはできません。三重県はもとより、全国的に、防災、減災、備える備災に取り組む必要があります。本校は、災害支援機能を備えた最新鋭の練習船「新鳥羽丸」の建造を進めています。システム操船および自律操船技術を基盤とした自動運航システムを実習可能な設備を実装した我が国初の最先端の練習船スマートシップとして、1年後に姿を現します。DX、デジタルトランスフォーメーションはあらゆる産業で急速に進化浸透しており、本校の商船学科と情報機械システム工学科は決して分け隔てられるものではなく、近い将来、情報技術、特にサイバーセキュリティやデータサイエンス、AIは共通の学修基盤となっていくでしょう。令和7年度には、みなさんの学科に高度情報工学を専修するコースの設置も計画されています。

アフターコロナの時代が始まり、社会は急速に変貌を遂げています。10年はかかると思わ

れていた開発が、わずか2 – 3年で成し遂げられる時代に私たちは生きています。人の動きの代わりをするAIから産まれる人型ロボットの開発に巨大な投資が行われています。国際社会も動いており、ご存じのとおり、紅海とその周辺での船舶への攻撃が止みません。その影響で多くの船舶がアフリカ南端の喜望峰を回るルートに迂回しており、燃料や保険などのコストの上昇など、日本を含む世界の物流や経済に影響が及んでいます。原料や製品の輸出入にかかわる大きな問題であり、いわゆる経済安全保障の課題を投げかけられています。海上輸送、すなわち海運が影響を受けることは、我が国の食料生産の原料、肥料、餌料などを多く輸入に依存していることから、食料安全保証にも関わる問題となります。我が国の経済社会は、海上輸送を含む物流に拠っているのです。

このような今日の社会情勢を踏まえると地球規模の感染症の拡大や自然災害のリスクの中で、いろいろあったでしょうが、皆さんはまだまだ安定した社会インフラの中での高専生活を過ごせたといえるのではないのでしょうか。世界では、落ち着いて勉学に励むことのできない環境におかれている同年代の人たちが数多くいることを忘れてはなりません。みなさんも仕事上はもちろん、機会を捉えて、各国の文化や伝統、制度を理解・尊重しながら良いところを取り入れ、積極的に交流するように心がけてください。

みなさんは1年生から5年生まで通貫して履修できるPBL（課題解決学習）において、地域の農林水産業のスマート化などに関わる課題解決に取り組みました。人から与えられた問題に取り組むのではなく、みずから課題を発掘し、みずから考え、提案し、解決に取り組むスキルをもっています。

Society 5.0、超スマート社会といわれる時代に向かって、卒業後は、さまざまな居場所と領域で、産業界において新たな製品やシステムに価値を創造し、技術者として様々な社会的課題の解決に果敢に取り組みながら、誰も考えつかなかったアイデアを産業にもっていく、難問にあたったときも「何とかする」ことを心がけて粘り強く進んでください。

卒業生・修了生は、本日をもって8049名となり、8000名を突破しました。海運・海事産業、情報、機械など、我が国の産業界に技術者を輩出し、多くの産業の発展に活躍しています。そしてこれからは、デジタルミックスの新産業の創出です。昨年は、我が国に高専が創設されて60周年の節目を迎えましたが、来る令和7年(2025年)は、校祖近藤真琴先生が本校の母体となった航海測量習練所を東京都港区芝に設置された明治8年(1875年)か

ら起算して、150周年の記念すべき年となります。学校を訪れてください。同窓生、研究室や部活の諸先輩ともしっかりつながり、また後輩を引っ張ってください。

人生100年といわれる時代、スマートで几帳面、負けじ魂で進もうではありませんか。最後に、みなさんの今日までの不断の努力にあらためて敬意を表します。(全員で拍手)、以上式辞といたします。

令和6年3月15日 独立行政法人国立高等専門学校機構

鳥羽商船高等専門学校長 和泉 充